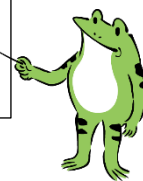


授業づくり Q&A —中学校道徳科—

「特別の教科 道徳」（道徳科）の授業づくりのポイントについて、Q&A 形式で示しています。
先生方の授業づくりの際に、ぜひ御活用ください。



はじめに

学習指導過程

評価

はじめに		A(回答)	詳しく！
Q1	道徳科で目指すことはどのようなことですか。	p.1	p.3
Q2	道徳科の授業で求められている学習はどのようなものですか。	p.1	p.4
Q3	道徳科の授業開きで大切なことはどのようなことですか。	p.1	p.5
学習指導過程			
Q4	道徳科の特質を生かした学習指導過程とはどのようなものですか。	p.1	p.6
Q5	道徳科の授業のねらいはどのように設定するとよいですか。	p.2	p.7
Q6	板書の際にどのような工夫をするとよいですか。	p.2	p.8
評価			
Q7	道徳科の授業に対する評価とはどのようなものですか。	p.2	p.9
参考:学習指導に困ったら・・・			
道徳科の授業において、学習指導をより充実させるための具体的な支援の例を紹介しています。			p.10

はじめに



Q1

道徳科で目指すことはどのようなことですか。

A1

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指します。



[A1を詳しく](#)



Q2

道徳科の授業で求められている学習はどのようなものですか。

A2

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習です。



[A2を詳しく](#)



Q3

道徳科の授業開きで大切なことはどのようなことですか。

A3

教師が、道徳科の授業が内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間であることを理解し、生徒とともに道徳科の学び方を確認することです。



[A3を詳しく](#)

学習指導過程



Q4

道徳科の特質を生かした学習指導過程とはどのようなものですか。

A4

ねらいに含まれる道徳的価値について、生徒が道徳的価値についての理解を基に道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めることを目指し、教材や生徒の実態などに応じて、どのような指導を展開していくか、その手順を示すものです。



[A4を詳しく](#)





Q5

道徳科の授業のねらいはどのように設定するとよいですか。

A5

道徳科の授業のねらいは、授業者が生徒や学級の実態に即して学習指導案を作成する際に、年間指導計画をよりどころにしながら設定します。


[🔍 A5 を詳しく](#)


Q6

生徒の思考を深める手掛かりとするために、どのような指導方法の工夫を行うとよいですか。

A6

指導方法の工夫の例として、板書を生かす工夫があります。その際、板書の機能を生かすために、思考の流れや順序を示すような順接的な板書のみにならないように教師が意図を明確にして板書を工夫をすることが大切です。


[🔍 A6 を詳しく](#)

評価



Q7

道徳科の授業に対する評価とはどのようなものですか。

A7

生徒にとっては、自分の成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。


[🔍 A7 を詳しく](#)

A1

道徳科では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指します。



具体を以下に示します

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、そして、その要となる道徳科ではどちらも「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目標にしています。道徳教育の要となる道徳科では、道徳性を構成する諸様相（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を育みます。道徳性の諸様相は、行為として現れる部分ではなく、目には見えない「内面的資質」です。道徳科の授業は、一人一人の生徒が道徳的価値を自覚し、人間としての生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面や状況で道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を育てる授業です(図1)。

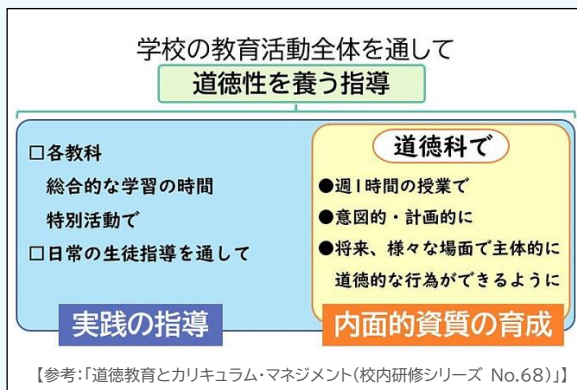


図1 道徳教育と道徳科のイメージ図

道徳科の授業では、22の内容項目について扱います。この内容項目は、中学校の3学年間に生徒が人間として他者と共によりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものです。これらの内容項目は、生徒自らが道徳性を養うための手掛かりとなるものです。そのため、指導に当たっては、内容を端的に表す言葉そのものを教え込んだり、知的な理解にのみとどまる指導になったりすることがないように十分留意する必要があります。一つ一つの内容項目の概要や発達の段階を踏まえた指導の要点の詳細については、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（以下、学習指導要領解説）に示されていますので、必ず読んで指導の参考にしてください。



道徳科と特別活動との関連

特別活動は、道徳科の授業で学んだ道徳的価値の理解や人間としての生き方についての考えを、よりよい学級や学校の生活や人間関係を築こうとする実践的な活動の中で実際に言動に表すとともに、集団の形成者としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもあります。それぞれの指導方法の違いを十分に理解した上で、日常生活における道徳的な実践の指導の充実を図る必要があります。

例：「よりよい人間関係」について話し合う場合

道徳科 人間関係をよくすることが大事だと分かっているけど、なぜなのかな。 自分の振る舞いが、みんなに嫌な思いをさせていたかもしれないな。 自分勝手な行動が人間関係を悪くするのは分かっているけど、気持ちを抑えられなかったな。 「なぜ人間関係をよりよく構築することが大切なのか」、「人間関係をよりよくすることが大事だと分かっているけど、なぜなのかな」といったことを問いながら、道徳的価値の理解や自分自身の生き方についての考えを深めることが目的	特別活動(学級活動) クラスみんなが仲良くなるにはどのようなことをすればよいのだろう。 みんなのよいところを探して紹介しよう。 相手が嫌がることは言わないようにする。 学級における人間関係に係る現実の問題をどのように解決するかを話し合い、集団として取り組むべき解決策を合意形成したり、自分が行うことを意思決定したりすることが目的
---	--

A2

道徳科の授業で求められている学習は、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習です。



🔍 具体を以下に示します

道徳科の授業は、主体的な判断に基づいて道徳的实践を行い、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする道徳教育の要となります(図2)。そのため、指導の際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切です。

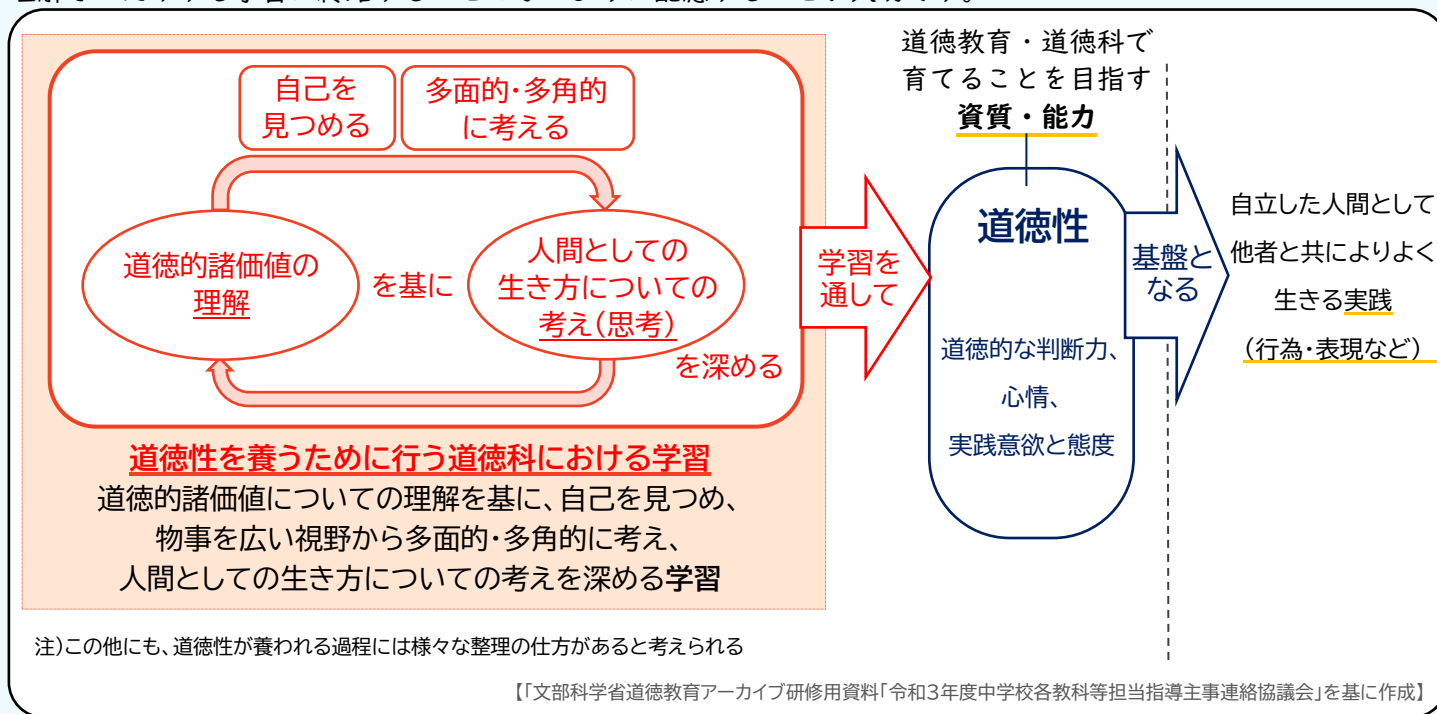


図2 道徳性を養うために行う道徳科における学習イメージ図

道徳性を養うために行う道徳科における学習について

道徳的諸価値の理解

道徳的諸価値の理解には、「価値理解」「人間理解」「他者理解」などがあります。この3つの理解を他人事ではなく、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら深めていきます。そうすることで、自己理解につながっていきます。👉 **「授業づくり FIRST STEP」**

自己を見つめる

様々な道徳的価値について、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めていきます。その際、真摯に自己と向き合い、自分との関わりで改めて道徳諸的価値を捉えることで、道徳的諸価値の理解と同時に自己理解を深めていきます。

多面的・多角的に考える

生徒一人一人の道徳的諸価値に係る様々な事象を、立場を変えて、視点を変えて考えていきます。人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察する学習が求められます。

人間としての生き方についての考えを深める

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることを通して、これまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方を考えたりしながら、自らの道徳的価値観を明確にしていきます。

【参考：浅見哲也著「こだわりの道徳授業レシピ」】

A3

道徳科の授業開きで大切なことは、教師が、道徳科の授業が内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間であることを理解し、生徒とともに道徳科の学び方を確認することです。



🔍 具体を以下に示します

道徳科の授業開きで大切にしたいことは、以下の2点です。

道徳科の特質を踏まえて、道徳科がどのような授業であるかを伝えます。

伝え方の例

- 例1) みんなの意見を聞き、自分を見つめることを通して、自分の生き方について考えを深めていく授業です。
- 例2) 自分らしく、よりよく生きていくために大切なことをみんなで考えていく授業です。
- 例3) よりよく生きる上で大切なものは何かを、お互いに対話をしながら自分の考えを広げたり深めたりする授業です。



道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を行うことを伝えます。

伝え方の例

- 例1) 授業には主題があります。その主題に沿った教材を使い、登場人物の立場に立って考えたり、これまでの自分の経験を思い出してつなげたりして考えていきましょう。
- 例2) 教材を通して考えたことについて、より深く授業の主題に沿って考えていきます。その際、様々な角度から主題について考えます。そのため、友達や先生とたくさん対話をしながら、考えを広げたり深めたりしていきましょう。そうすることで、友達のよさや自分のよさが分かり、よりよく生きていくために大切なことが見えてきます。
- 例3) 授業の始めと終わりとで自分の考えの変化（深まった、新たな発見があった、など）を確認し、自分の心を見つめ、これからの生き方についての考えを深めていきます。その上で、改めて自分の心を見つめ、自分と対話し、自分にとって納得できる考えを見つけていきましょう。



【参考：浅見哲也著「こだわりの道徳授業レシピ」】

※あくまでも伝え方の例ですので、生徒の実態に合わせて御活用ください。

point



授業開きだけでなく、毎時間の授業の中でも、生徒に「友達と対話をして、考えを広げたり深めたりしていきましょう。」「自分の心を見つめ、考えを深めましょう。」などの言葉を掛けることで、道徳科の授業が内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間であることについての理解が深まります。

また、授業開きの際に、1年間で扱う内容項目の全体像を確認することで、生徒自らが道徳性を養うための手掛かりについて見通しをもつことができるようになります。

A4

道徳科の特質を生かした学習指導過程とは、ねらいに含まれる道徳的価値について、生徒が道徳的価値についての理解を基に道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めることを目指し、教材や生徒の実態などに応じて、どのような指導を展開していくか、その手順を示すものです。



具体を以下に示します

道徳科の学習指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には以下のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。生徒の実態、指導の内容や教師の指導の意図、教材の効果的な活用などに応じて弾力的に扱うなど、各段階で多様な工夫をすることが大切です。

	学習指導の基本 ※留意点	◆学習指導の例 ※留意点
導入	主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る段階。 □ 本時の主題に関わる問題意識をもつことができるようにする □ 教材の内容に興味や関心を高めることができるようにする	◆本時の主題に関わる生徒の実態を知るためのアンケート調査結果等の提示をする。 ◆教材の時代背景や、人物紹介、具体物等の提示をする。
展開	ねらいを達成するための中心となる段階であり、生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める段階。 □ 教材を基に話し合う時間を設定する □ 教材を通して道徳的価値についての理解を深めることができるようにする □ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるようにする ※教材に描かれている道徳的価値に対する生徒一人一人の感じ方や考え方を生かし、生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自分の問題として受け止め深く自己を見つめたりするなど、学習が深まるように留意する。	◆生徒の実態と教材の特質を押さえた発問をする。 ⇒発問例)「〇〇のとき、主人公はどのような気持ちだったのだろう。」など。 ※発問には軽重を付け、時間配分を考慮する。 ◆道徳的価値の意味や大切さを理解する発問をする。 ⇒発問例)「〇〇とは何だろう。」 「どうして〇〇は大切なのだろうか。」 「〇〇をするために大切なことはどのようなことだろう。」 「〇〇が大切だと分かっているのに、できないのはなぜだろう。」など。 ※物事を多面的・多角的に考えたり、自分の問題として受け止めたりすることができるように工夫する。 ◆ねらいとする道徳的価値を手掛かりとして自分との対話を促す。 ⇒発問例)「その道徳的価値は自分にとってどのような意味があるのだろうか。」 「その道徳的価値は、どのように生かすことができるのだろうか。」など。
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、自分自身の成長につなげたりする段階。 □ 説話をする □ 自己を見つめ、学習した道徳的価値を手掛かりとして、自己の思いを書くことができるようにする ※生徒一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感し、確かめることができるように工夫する。	◆説話として、教師の体験談や願い、生徒の日常生活における身近な話題、ことわざや格言、地域の自然や伝統文化に関することなどを話す。 ※生徒への叱責、訓戒や行為、考え方の押し付けにならないように注意する。 ◆学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだりを更に深く心にとどめたり、これからへの思いについて考えたりしたことについて整理できるように書く活動を取り入れる。 ※書く活動は、生徒が生き方について考えを深めるために取り入れることに留意する。

【参考：浅見哲也著「道徳科 授業構想グランドデザイン」及び「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～特別支援学級における指導の在り方：実践編～（校内研修シリーズ No.99）」】

A5

道徳科の授業のねらいは、授業者が生徒や学級の実態に即して学習指導案を作成する際に年間指導計画をよりどころにしながら設定します。また、育てたい内面的資質である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳の態度のいずれかに焦点を当てて設定します。



🔍 具体を以下に示します

道徳科の授業のねらいは、「道徳的価値」「生徒の実態」「教材の活用方法」を踏まえて設定します。

道徳的価値	生徒の実態	教材の活用方法に対する吟味
○学習指導要領解説で内容項目の概要や指導の要点を確認する。 ○道徳的価値の意義を理解し、重点的に考えさせたい内容を明確にする。	○ねらいとする道徳的価値についての生徒の実態を把握する（傾向性や課題等）。 ○授業で扱う道徳的価値について、生徒にどのようなことに気付かせたいか、どのようなことを考えさせたいかを、生徒の実態を基に明確にする。	○生徒の実態を踏まえ、ねらいとする道徳的価値に対する教材の活用の仕方を明らかにする。 ○教材の活用を通して、どのような学習を行うのかを明確にする。

ねらいの設定

育てたい内面的資質である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳の態度のいずれかに焦点を当て、ねらいとする道徳的価値を基に、指導の意図を明確にします。

授業のねらいの表現（例）

- | | |
|------------------|----------------|
| ○ ～しようとする判断力を高める | ～しようとする判断力を育てる |
| ○ ～しようとする心情を養う | ～しようとする心情を育てる |
| ○ ～しようとする意欲を高める | ～しようとする意欲を育てる |
| ○ ～しようとする態度を養う | ～しようとする態度を育てる |

※「養う」と「育てる」について

道徳性を「養う」は、全教育活動を通じて育てるという意味と、生徒自らが自分を育てていくという意味で使われています。内面的資質を「育てる」とは、道徳科の特質を理解した教師が生徒を育てるという意味で使われています。

「養う」「育てる」は、その意味を理解した上で、指導の意図をもって使い分けることが大切です。



【参考：浅見哲也著「道徳科 授業構想グランドデザイン」】



1単位時間の授業のねらいについて

学習指導要領解説には、「道徳科においては、一つの主題（授業のねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表したものを）を1単位時間で取り扱うことが一般的である」と示されています。人間としての生き方についての考えをより深めるような、深い学びのある授業をするためには、一つの主題を1単位時間で取り扱うことが望ましいです。また、内容によっては複数の時間の関連を図った指導の工夫などを計画的に位置付けて行うことも考えられます。例えば、一つの主題を2単位時間にわたって指導し、道徳的諸価値の理解に基づいて人間としての生き方についての学習を充実させる方法や重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進める方法など、様々な方法が考えられます。

A6

板書をする際は、板書の機能を生かすために、思考の流れや順序を示すような順接的な板書のみにならないように教師が意図を明確にして板書を生かす工夫をします。



具体を以下に示します

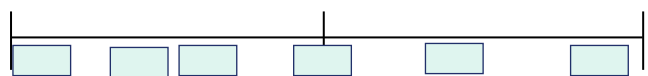
道徳科における板書は生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなります。また、板書は教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど、多様な機能をもっています。このような機能を生かすために重要なことは、生徒にとっての分かりやすさを第一に考えることです。

板書を生かす工夫

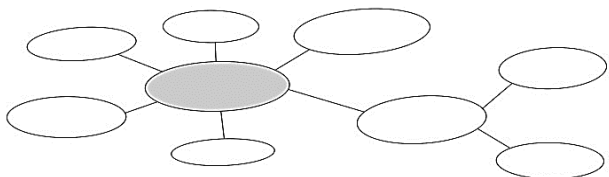
- 自分の考えは、全体のどこに位置付くのかが分かるようにする。
- 自分の考えと友達の考えは、何が違うのかが分かるようにする。
- 自分の考えと友達の考えは、どのくらい違うのか。どのようなところが同じなのかが分かるようにする。 など

様々な人の心を可視化して、道徳的価値の意義について考えることが、道徳性を養うためには大切です。黒板を見た生徒が、自分の考えを確かめ、友達の考えと比較し、自分の考えをより確かなものにして自己の生き方に生かすことができるような板書を生かす工夫が必要です。

板書を生かす工夫例



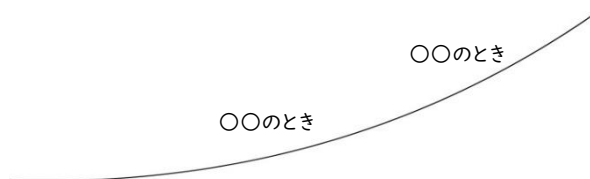
ネームプレートを活用して、自分の考えや友達の考えを可視化する方法。自分の考えは、全体のどこに位置付くかを捉えることができる。



ウェビングマップに示して関係性等を可視化する方法。中心としたもの（例えば自分）からどのような広がりがあるかを捉えることができる。



教材の登場人物の心の動きを、表情絵を使って可視化する方法。登場人物の気持ちの変化を絵の表情から捉えることができる。



教材の主人公の気持ちの変化を線で表し、生徒の反応を板書して、書き加えていく方法。自分の考えを確かめ、友達の考えと比較することができる。



教材の登場人物の関係性をイラストを使って可視化する方法。心の動きや距離感などをイラストを動かすことで捉えることができる。

黒板を見た生徒の考えが更に深まるように、違いや多様さに対比的、構造的に示す工夫、中心部分を浮き立たせる工夫など、教師が意図を明確にして取り組むことが大切です。また、教師が生徒の考えを取り入れ、生徒とともにつくっていくような創造的な板書となるように心掛けることも大切です。☞ [「授業づくりシート（記入例）」](#)

A7

道徳科の評価とは、生徒にとっては、自分の成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。



📖 「道徳科に求められる評価（NITS 校内研修シリーズ No.46）」

🔍 具体を以下に示します

道徳科における評価は、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要があります。

生徒の成長につながる評価のポイント

- 生徒の学習状況*や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する。
- 個々の内容項目ごとではなく、年間や学期などの一定の時間的なまとまりを踏まえた評価をする。
- 生徒がいかに関心したかを、積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。
- 学習活動において、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかを重視する。
- 学習活動において、生徒が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視する。

生徒の学習状況を見取る評価の視点の例

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。など

*）生徒の学習状況とは、生徒が道徳科の学習活動を通して学ぶ様子のことです。📖 「授業づくり Q&A Q2」

以下は、道徳科の評価に係る留意点です。

- 道徳科の授業で養われた道徳性を、数値などによって不用意に評価してはならない。
- ねらいとする道徳的価値について、内面的資質が育ったかどうかを容易に判断できるものではない。
- ねらいとする道徳的価値がどのくらい理解できたかどうかを評価することはふさわしくない。
- 個人内評価であるため、他の生徒と比較した評価をしてはならない。
- 評価規準はないため、達成度は評価できない。



学習指導過程や指導方法に関する評価の観点の例

道徳科を通して道徳性を養うために、生徒の成長につながる評価ができる道徳科の授業を目指すことが大切です。以下は、授業に対する評価の観点の例です。

- 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものになっていたか。
- 発問は、生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- 生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- 自分自身との関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができるようになるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、生徒の実態や発達段階にふさわしいものであったか。
- 特に配慮を要する生徒に適切に対応していたか。

【参考：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編 pp.117-118】



学習指導に困ったら・・・

道徳科の授業における学習指導の具体的な支援の例

道徳性を養うことを目的とした道徳科において、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。道徳科の授業において、学習指導をより充実させるための具体的な支援の例を紹介しています。ぜひ、御活用ください。

【支援の例】

教材提示をする場面	○サイドラインを引かせながら範読する。 ○教材を映像化、紙芝居化する。 ○ペープサートやパペット等を活用する。 ○場面絵の掲示、ICTの活用などにより人物の関係性を可視化する。 ○教材提示後は、場面絵などを再活用してあらすじを確認し、教材の内容を再度押さえていく。 など
指示や発問をする場面	○短い言葉で簡潔に伝える。 ○キーワードを板書するなどして可視化する。 ○教材の人物や友達の内側に入ったつもりで考えることができるような発問をする。 ○具体的な経験や生活場面とつなげて考えることができるような発問をする。 など
人物の心情把握や自分の考えを表現する場面	○登場人物の発言や動作を模倣する活動である動作化を取り入れる。 ○役割演技を取り入れ、臨場感を出し、状況を可視化する。 ○心情を二つの色に区分し選択を促したり、ネームカードを活用したりする。 ○表情絵（喜び、悲しみ、怒り、など）を用意し、選択を促す。 ○ワークシートに書く場合は、リード文を付けたり、書き出しを明示したりする。 ※母に叱られた場合「また、叱られてしまったよ。_____。」など ※教師が生徒のそばへ行き、一緒に考え、生徒の思いを代筆や代弁をする。 など
価値理解を図る場面	○道徳的価値の意義やよさを話し合うことが難しいときは、「主人公に大切なことを教えてあげよう。」などの発問に替える。 ○ワークシートに書く場合は、教師がそばに行って聞き取りをすることで、考えたことを文にするように促す。 ○ワークシートに書く場合は、リード文を付けたり、書き出しを明示したりする。 ※必要に応じて、代筆する。 ※必要に応じて、生徒の反応は、教師から紹介する。 など
自己を見つめる場面	○学習内容についてそれぞれに、○×を記入して振り返ることができるようにする。 ○「分かったことを1文で書く。」や「最も心に残ったこととその理由を2文で書く。」など、文の数を指定する。 ○書く分量が分かるように、行やマス目を入れておく。 ○ワークシートに書く場合には、教師がそばに行って聞き取りをすることで、思い出したことを文にするように促す。 ※必要に応じて、代筆する。 など

【参考：坂本哲彦編著「教科書教材でつくる道徳科授業のユニバーサルデザイン」及び田沼茂紀編著「インクルーシブな道徳科授業づくりー個別最適な学びの実現ー」】